

Hi! from SAGA

Summer 2022 vol.12

SUISA ニュースレターチーム
& 佐賀大学国際交流推進センター



ウェルカムパーティー2022

新型コロナウイルス感染症による約2年間の制限を経て、佐賀大学は交換留学生を含む、多くの留学生の受け入れを再開し、2022年5月 SUISA は対面でのウェルカムパーティーを開催しました。



International Week 2022

7月に「国際交流や留学にふれる1週間」として毎日イベントが開催された「International Week2022」。SUISA メンバーもいくつかのイベントに参加をしました。



海外協定校インドネシア・マラン国立大学からの表敬訪問

2022年7月21日、佐賀大学の海外協定校インドネシアのマラン国立大学の代表団が佐賀大学を訪問しました。マラン国立大学出身の SUISA ニュースレターチームのメンバーが表敬訪問の一部に参加させてもらい、訪問の様子を伺いました。

佐賀大学国際交流推進センター

+81-952-28-8169



ryugaku@mail.admin.saga-u.ac.jp



<https://www.irdc.saga-u.ac.jp>



ウェルカムパーティー2022

2022年、新型コロナウイルス感染症による2年間の制限を経て、佐賀大学は再び多くの留学生を迎え入れることになりました。大学では、長い間中断していた活動のほとんどを再開しており、「ウェルカムパーティー」もその一つでした。2022年6月3日、満を持して、SUISA（佐賀大学留学生会）が国際交流推進センターと共同でウェルカムパーティーを開催しました。

SUISA にとってはこのウェルカムパーティーが新型コロナ大流行以来、初めての中国、ベトナム、台湾、韓国、ミャンマー、コソボ、リトアニア、ジンバブエ、ベナン、キャメロン、インドネシア、ネパール、バングラデシュ、スリランカ、フランス、そして開催国日本からの50名以上の学生が参加した対面イベントとなりました。イベントは、国際交流会館A棟の1階ラウンジで行われました。



イベントは国際交流推進センター長の三島伸雄先生から開会の挨拶から始まりました。その後、SUISAの共同創設者であるRami Derbel（ラミー・デルベル）の激励の挨拶、そしてSUISA、LIFE、グローバルサポーターズの3つの国際交流団体のプレゼンテーションが行われました。これらの団体の主な目的は、日本人と世界各国からの留学生との架け橋となり、多様性への理解と認識を深めるための幅広いコミュニティを提供すること、そして健全な環境を作り、日本での生活と学習を促進するための手助けをすることにあります。



イベントの最大の目的は、イベントの参加者同士が交流し、会話を深めることです。これが短時間で距離を縮めるのに最も効果的な方法です。新入生への歓迎の意を表し、佐賀市や佐賀大学についての情報を共有した後、より交流を深めるために「トリビアゲーム」を行いました。参加者をチームに分け、各チームで正解を競い、勝利を目指しました。1時間ほど遊びましたが、どのチームも見事でした。クイズの問題に、チーム全体で知恵をひねり答えを導きだし正解すると大喜びで盛り上がっていました。一番点数の高かったチームが優勝となりました。



トリビアゲームでウォーミングアップをした後、イベント会場を出て、外に集まりました。そして、インドネシアの歌「Lagisayantik」と南アフリカの歌「Jerusalama」に合わせて、みんなで踊りました。満足感、一体感、そして温かな歓迎の気持ちが伝わってきました。対面開催の規則が厳しく、新型コロナウイルス感染症のためにソーシャルディスタンスを置いていた2年間は、ウェルカムパーティーは毎年オンラインで開催されました。学生たちはそれぞれの国から参加するため、イベント終了後に改めて会話をしたりや実際に会ったりということは難しいというのが現実でした。そのため、今回の久しぶりに対面でウェルカムパーティーを開催できたことは佐賀大学に活気を与え、また在在学生にとってもコロナ以前の思い出を蘇らせてくれる機会となりました。

（文：サンサン 日本語翻訳：國弘）

International Week 2022

2022年7月11日から15日まで、「International Week2022」が開催されました。International Weekは一週間を通して国際交流や留学に触れ、異文化理解を深め新たな人と交流をするために開催されました。一週間の中では、「特別講演『使える英語の身につけ方』」や「交換留学成果報告会」など、今後留学や国際交流に役立つセミナーが日本語で行われました。また、これらセミナー以外にも、グローバルサポーターズによる留学生と日本人学生との交流イベントが実施されました。12日（火）には、「異文化ワークショップ」が開催されました。このイベントでは、リトアニアからの留学生ユスティナさんとポヴィラスさん、韓国からの留学生ジューンさんが、それぞれの出身国についてプレゼンテーションを行いました。それぞれのプレゼンテーションには私たちが知らないような興味深い事実がありました。

リトアニア語のルーツがサンスクリット語であることは興味深く、私の言語であるタイ語もリトアニアから非常に離れているにもかかわらず、サンスクリット語をルーツとしており、共通点があることが分かりました。観光名所の中で私が最も興味を持ったのはトラカイ城です。孤島に建つお城は、本当に不思議な風景です。また、リトアニアのお菓子「ティンギニス」という伝統的なチョコレートのデザートもいつか食べてみたいものです。朝食のコーヒーにととても合いそうな予感がしました。



(留学生ボビュラスくん(左) ユスティナさん(右)による発表)

次は韓国についてジェーンさんがとても魅力的でかわいいスライドを作ってくれました。韓国の人々は、時間を無駄にすることを好まず、何事も素早く行こうとします。これは「パッリパッリ(빨리 빨리=早く早く)文化」と言われるそうです。そのため、韓国の市役所ではとても迅速なサービスを提供してくれるようで、15分も待てば手続きを終えることができるそうです。とても早いサービスですね！また最近、韓国では「16の性格診断(MBTIとして知られています)」というものが流行っているそうです。多くのテレビ番組で紹介され、人と打ち解けるためのきっかけとしても人気があるそうです。



(留学生ジェーンさんによる発表)

発表の後は、アクティビティーを行いました。アイスブレイキングゲームや、ジェスチャーゲームなど、盛りだくさんの内容でした。このイベントではたくさんの知識を得ることができ、またとても楽しい時間を過ごすことができました。



(発表後のアクティビティーの様子)



(7月15日実施。佐賀大学ウォークラリーの様子)

15日(金)は、インターナショナルウィーク最終日。「佐賀大学ウォークラリー」は屋外で開催予定でした。しかし、当日はあいにくの雨模様で、屋内での開催となりました。しかしグローバルサポーターズが準備してくれたおかげで、問題なくスムーズにイベントを楽しむことができました。前半は、チームで協力して指定されたテーマのアイテムを探し写真を撮るウォークラリーアクティビティー。チームメンバーでおかしなポーズをとりながら写真を撮るのはとても面白かったです。その後は、英語の早口言葉ゲームに挑戦しました。各ラウンドで、各チームが代表者を送り出し、部屋の前で舌戦を繰り広げます。いくつかとても難しそうなお題がありましたが、皆とてもそつなくこなしているのが印象的でした。最後に、クロスワードパズルでチームメンバー同士「あだこうだ」といいながら頭を使いました。このパズルをあっという間に解いてしまうグループがあることにも驚かされました。クロスワードパズルに慣れている人もいたのでしょう。



この「International Week2022」の一週間で、たくさんの新しい友人と知り合うことができました。今この記事を読んでいる人で次回参加したいという方がいたら、国際交流推進センターからの情報をお見逃しなく！

(文：チーム、日本語翻訳：國弘)

海外協定校マラン国立大学からの表敬訪問

2022年7月21日、佐賀大学の海外協定校であるインドネシアのマラン国立大学の代表団が佐賀大学を訪問しました。マラン国立大学の学長であるロフィウッドイン学長をはじめとする教授陣や国際交流部長が佐賀大学を訪れ、今後の両校の間での交流について友好的に話し合いました。その交流とは、交換留学、ダブルディグリープログラム、非常勤教授プログラムなどです。交換留学プログラムは、2015年にマラン国立大学がSPACEプログラムの学生として佐賀大学に学生を派遣してから現在まで継続しており、また2017年からUMiCampの参加者として佐賀大学がマラン国立大学に学生を派遣しています。素敵な交流です。



当日は、マラン国立大学の先生方が佐賀駅に到着されたので、佐賀大学のスタッフとともにお迎えに行きました。マラン大学の先生方は今回の訪問をとっても楽しみにされていたようで、佐賀大学の写真をたくさん撮っており、その興奮は冷めることがありませんでした。道中は、国際交流推進センターのスタッフである大坪さんが、佐賀県庁や佐賀城跡地、景色や、銅像など、佐賀の名所を巡りながら佐賀大学へ向かいました。この大坪さんによるミニドライブツアーにより訪問団の気持ちはより高まったようで、一行はとて興味を持たれたようでした。訪問の前日福岡に滞在していたマラン国立大学国際課課長のEvi氏は、「佐賀は福岡ほど混雑していないので、勉強に集中するにはいい場所ですね。」と話していました。また、マラン国立大学の教授で統合研究所の所長であるHadi先生（北海道大学卒）は、

「小さな都市ほど、親切で謙虚な人が多い」とおっしゃっていました。まさにその通り！佐賀県はそのような所だと私も思います。



一行を乗せた車は佐賀大学に到着し、学長室で表敬訪問が行われました。会合では、マラン国立大学と佐賀大学の紹介ビデオがそれぞれ紹介されました。

(マラン国立大学紹介ビデオ <https://youtu.be/0o6AFtLuvBM>)

(佐賀大学紹介ビデオ https://youtu.be/dR6ZiP6_GXA)

その後、理工学部で佐賀大学の理工学部の先生方と会合をされました。この日の会合では、両学がこれから発展するための様々なトピックや新しい活動についての話し合いが行われました。



時間が経つのは早いもので、マラン国立大学の先生方が佐賀駅に戻られる時間が迫ってきました。お別れの前に、佐賀大学の前で、マラン国立大学のマスコットである「カクラワラ（地平線）」を意味する「Cポーズ」で記念撮影を撮り、お別れをしました。

(文：ジェフリ,日本語翻訳：國弘)

編集

フレアパー ピームマバット、工学系研究科博士課程2年
ミヤット トユースン、大学院連合農学研究科、博士課程1年
國弘 貴之、教育学部 小中連携教育 中等主免教育 英語専攻4年
ジェフリ テウリ アーディアンサ、理工学研究科博士課程2年
教務課留学生交流室 北村菜さんに特別な感謝を捧げます